
天剣授受者レイフォン

錆びた刀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天剣授受者レイフォン

【Nコード】

N2452Y

【作者名】

錆びた刀

【あらすじ】

鋼殻のレギオスの世界で、槍殻都市グレンダンで女王陛下、天剣授受者が小説と違う行動をしていたら。

また、それ以外の人たちの行動等の違い、それに伴った原作と違う劉やダイトが誕生します。

オリキャラが出ますが、主人公ではありません。

違う作品のキャラクターが出てくることもあるかもしれません。

初めて読む人へ

初めて読む人へ

はじめまして。

私、錆びた刀といいます。

すばらしい作者様方の作品を読ませていただき私も書いてみたい
と思います。

内容としては、鋼殻のレギオスの二次作品となります。

主人公は、レイフォンとなっています。

小説の流れでここが違えばこうなったのではないかと私自身が考
えた内容となっています。

とはいえ、原作から余りかけ離れないようにしたいと考えていま
すが、書いている途中で変わってしまうかもしれません。よろしく
お願いいたします。

注意事項

キャラクタの話し方を完全に理解しているわけではないので、皆
様が持っているキャラクタのイメージを壊してしまうかもしれません。
ん。

そのようなことが、嫌という方は読まないでください。

小説を書くのは土曜・日曜・祝日しか小説を書かないため、更新
速度はとても遅いです。

また、他作品のキャラが出てくる可能性があるかもしれませんが
よろしく願いいたします。

お願い

私は、ネーミングセンスがないので、オリジナルキャラクターが話で重要であっても名前が決まっていけないということもありますので、そのときは、小説を読んでくださった方から名前を募集させていただきます。

未熟者の私の作品ですが、温かく見守ってください。

以上

登場人物（前書き）

この小説に出てくる人物に関しての紹介を行います。
原作に出ていたキャラでも性格などが違うことがあります。

更新については各話の前書きにてご連絡いたします。

登場人物

登場人物紹介

レイフォン・ヴォルフシュテイン・アルセイフ

本小説主人公

武芸の天才であり、天剣授受者最年少記録保持者であり、サイハ―デン刀争術の免許皆伝である。

また、グレンダン―武芸の器用な武芸者と言われている。

普段はおっとりしており、外部から来た武芸者には見た目からよく戦いを仕掛けられることもある。

ある理由から勉強をしているため、原作とは違い勉強嫌いではなく、平均以上の学力を持っている。

リーリン・マーフエス

本小説ヒロイン

レイフォンとは子供のときからの同じ孤児院にて育った。

その為、もつともレイフォンの事を身近で見守っていたこともあり、レイフォンに恋心を抱いているが、その事を伝えられていない。

孤児院で育ったため、家事はかなりの実力を持っている。

それだけではなく、ある理由から経済について勉強しており、孤児院の運営のほとんどを行っている。

彼女には何か秘密がありそうだ。

アルシエイラ・アルモニス

グレンダン女王

槍殻都市グレンダンにおいて最強の存在。

自由気ままな性格をしているが、自分がやると決めたことはやり遂げる。

普段はシノーラ・アレイスラと名乗り学校に通っている。

天剣授受者：

カウンティア・ヴァルモン・ファーンズ

大刀使いの武芸者

好戦的な性格をしており、常に一撃必殺の一撃を放ち防御のことを考えない戦い方を行っている。

肌は褐色で顔と胸の辺りには大きな傷がある。

同じ天剣授受者であるリヴァース・イージナス・エルメンの恋人であり、リヴァースからは「ティア」と呼ばれている。

カナリス・エアリフォス・リヴィン

レイピア使いの武芸者

アルシェイラの影武者をしており、グレンダンの政務のほとんどをアルシェイラに変わり執り行っている。

まじめな性格をしており、決まりごとなどを破ったものに対しては厳しく時には武力にて相手を再起不能なまでにしてしまうことがある。

自由気ままなアルシェイラに困らせられることもしばしばだがアルシェイラに絶対的な忠誠を誓っている。

カルヴァーン・ゲオルディウス・ミッドノット

長剣使いの武芸者

ミッドノット流の創始者である。

まじめな性格をしており、自由気ままなアルシェイラに思うところがあるが、その力と戦闘時を知っているため、アルシェイラに忠誠を誓っている。

天剣授受者一武芸者に対して厳しく武芸者の責務を果たさないものに対しては容赦がない。

サヴァリス・クオルラフィン・ルツケンス

手甲使いの武芸者

グレンダンでも有名なルツケンス家の長男

ルツケンス流の技をすべて覚えていたが免許皆伝にはいたっていない。

本人はその事をまったく気にしていない。

また、ある理由よりルツケンス流を止め、ある流派に弟子入りした。

好戦的な性格であり、戦闘狂である。

ただ、武芸者としての力以外も認めており、その成長の手助けすることもある。

ティギリス・ノイエラン・ロンスマイア

長弓使いの武芸者

不動の天剣授受者といわれており、その戦い方は長距離射撃による殲滅をすることからそう呼ばれている。

顎鬚を伸ばしている。

温和な性格をしており、彼が怒っているところを誰も見たことがない。

トロイアット・ギャバネスト・フィランディン

杖使いの武芸者

天剣授受者一の女性好きである。

軽薄な性格をしているが、ヒーローに憧れを持っているため、登場の仕方には彼なりのこだわりがあるようだ。

また、化鍊剄の使い手としてはグレンダンナーである。

彼には決まった技の名前がなく、剄技を出す際の名前はその場での思い付きである。

バーメリン・スワッティス・ノルネ

銃器使いの武芸者

潔癖症である。

口が悪くデルボネから良くそのことについて注意されている。
露出の多い服を常に身にまとっている。

リントンス・サーヴォレイド・ハーデン

鋼系使いの武芸者

天剣授受者最強と言われている。
人間嫌いな性格であり、物事を大きな数字で表す。
レイフオンの鋼系の師匠である。

リヴァース・イージナス・エルメン

盾使いの武芸者

天剣授受者一攻撃力がなく自ら攻撃することはない。
臆病な性格をしているが、大切な人を守るために戦場に立つと決してひくことはない。

また、盾を使うことから防御主体の戦い方をする。

同じ天剣授受者であるカウンティア・ヴァルモン・ファーンネスの恋人でありカウンティアからは「リヴ」と呼ばれている。

ルイメイ・ガールント・メックリング

鎖付鉄球の使い手の武芸者

攻撃方法は鉄球を使用した戦い方のため、都市内での戦闘を禁止されており、外縁部から外への攻撃が都市外部での戦闘だけとなっている。

鍛えられが筋肉は岩のようであり、身長は2mを超えている。

デルボネ・キュアンティス・ミューラ

念威操者

天剣授受者で唯一の念威操者である。

戦闘は行わないが、その分戦闘では天剣授受者への情報提供にて貢献している。

また、普段は病院のベッドにて生活しており、外の状況を把握するために常に念威端子をグレンダン中に放っている。

物静かな性格をしているが、お見合いをさせることが好きで様々な人にお見合い話を持ちかけている。

地剣授受者

ティアレス・ルツケンス

手甲の使い手の武芸者

普段は物静かであるが、武芸に関することに関しては冷酷である。一人前の武芸者に対しては寛容であるが、未熟な武芸者に対しては容赦がない。

また、サヴァリスの母親であり、その容姿はサヴァリスに似ており、外見年齢は20歳程度にしか見えない。

ルツケンス流の剋技の使い方ではサヴァリスを超える実力がある。

クラリーベル・ロンスマイア

刀使いの武芸者

ティグリスの孫娘

天真爛漫な性格をしており、回りには「クララ」と呼ぶように言っている。

初めての出撃時にレイフォンに助けられ、その強さにあこがれており、いつかレイフォンに認められたいと考えている。

自身では理解していないが、レイフォンにそれ以外の思いを抱いている。

?????

現在行方不明

???

現在別都市に滞在中

登場人物（後書き）

性格の違いなどについては過去編のことを考慮してのことですのでご了承ください。

第1話 伝えられた事実（前書き）

アルシェイラは世界の命運をかけた戦いに関わる都市が存在していることをグレンダンの深奥部にいるものから伝えられる。

そして、伝えられた内容からあることを決意する。

第1話 伝えられた事実

第1話 伝えられた事実

アルシェイラの夢の中：

「ここはどこかしら？」

アルシェイラは周りを見渡したが、誰もいない。

「こうしてあなたと話すのは初めてですね。」

そこに、女性の声が聞こえてきた。

「誰!!」

人がいることを感知できなかったために内心であせっていた。
アルシェイラの誰何の声が聞こえたためか声をかけた女性が姿を現した。

「あなたはもしかして、サヤ？」

グレンダンの深奥部にいる物がであるか確認するために名前を聞いた。

「そうよ。」

そして、ここはあなたの夢の中。」

「私の夢の中に出てくるなんて何かあったの？」

「もうまもなく世界の命運をかけた戦いが始まります。」

「っ!!」

そう、私たちの本当の戦いが始まるのね。」

「ただ問題が一つあります。」

「問題？」

「どんな問題なの？」

「戦いに干渉しようとしている都市が2つあります。」

「そんな馬鹿な都市なんて放っておけばいいでしょ？」

「グレンダン以外の都市じゃ相手にならないんだから。」

「その通りです。」

1つはシュナイバル、こちらは以前より干渉しようとしており、人に電子精霊を与えるなどしています。ただの人にくら電子精霊の力を与えたところで意味はありません。

それに、シュナイバルとは言え、下級電子精霊なので問題ありません。

しかし、もう1つの都市が問題なのです。」

「それはどこなの？」

アルシェイラはグレンダン以外ではシュナイバル以外は世界の命運をかけた戦いに参加しようとする都市があるとは信じられなかった。

「ツエルニです。」

「ツエルニ？」

アルシェイラはサヤから伝えられた都市名を鸚鵡返しした。
残念ながらアルシェイラの記憶にはツエルニと言う都市名は記憶
されていなかった。

「その都市は学園都市です。」

その為、あなたが知らなくても仕方ありません。」

サヤはアルシェイラがツエルニを知らないことを理解したため、
都市の役割を教えた。

「学園都市ごときが？」

何かの間違いじゃないの。」

アルシェイラは自分でも思っていないことを口にした。
アルシェイラ自身サヤが都市のことで間違えるとは思っていない
が、どうしてもそのことが信じられなかった。

サヤはアルシェイラの問いかけにを不快に感じた様子もなく姿を
現したときと同じ表情をしている。

「私は事実を伝えているだけです。」

なぜ学園都市が戦いに関わるのかまではわかりません。

ただ、このまま放置しておくわけにはいかないと感じたためにあ
なたに伝えているだけです。」

サヤは淡々とした口調でアルシェイラに事実を伝えた。

「たかが学園都市ごとき放っておいてもいいんじゃないの？」

アルシェイラは学園都市にいる程度の武者では戦いに関わったとしてもたいした事がないと考えたためそう言い放った。

「普通なら放っておいても問題ないでしょう。

しかし、ツエルニは突如として戦いに関わるようになりました。

そのことが戦いのイレギュラーになりかねないと私は感じました。戦いの戦況を左右しかねないことはなるべく配しておきたいのです。」

アルシェイラはサヤが言っていることが当然のことであることがわかっていてため何かを考え始めた。

「サヤ、これだけは確認させて欲しいの。

今のグレンダンの戦力でもそのイレギュラーが加われば負けるかもしれないの？」

アルシェイラはグレンダンの最高戦力たちがここ数年でその実力を大きく伸ばしていることを理解しているからこそそう問いただけだ。

なぜなら、グレンダンの最高戦力たちはあるきっかけから身につけた力を十分に使いこなせるようになり、一般的なダイトの許容量を大きく上回る劉量を持っている武者者とは一閃を画する存在へとなっているためである。

そして、その事をサヤも理解していると知ったうえでの問いかけである。

「確かに彼らは強くなりました。

しかし、戦いに絶対はありません。」

サヤは現在のグレンダンの総力を知ったうえでそう言った。同時にアルシェイラも自分がバカらしいことを聞いたと感じた。

「それもそうね。」

ツエルニが関わろうとしている理由はこっちでも調べてみるわ。サヤとしての考えとしてはどうして欲しいの？」

サヤが自分と同じことを考えているのではないかと感じながらも意見を求めた。

「一番確実に調べられるように誰かをツエルニに行ってもらうことです。」

「やっぱりそうなるわよね。わかったわ。」

適任者がいるからツエルニで調べてきてもらうわ。」

自分の剣たちの中に今回の件の適任者がいるため、その人物たちに命を下すことを決意した。

「ではよろしく願います。」

私はもうしばらく眠っています。

次にあなたに合うとすれば現実世界での戦いが始まる直前になるでしょうね。」

「そうですね。」

それじゃあ、サヤおやすみなさい。

私たちが勝つ夢でも見ながら寝てなさい。」

「その夢が実現されることを祈りながら眠っています。」

そういうとともにサヤはアルシェイラの前から姿を消した。

そして、アルシェイラにもある変化が現れた。

「意識が遠くなっていくわね・・・。

体が覚醒しようとしているのかしら？

まあ、私がやることは決まっているんだからそれを実行するだけ
ね。」

そうつぶやいた直後にアルシェイラは自分の寝室のベッドの上で
目を覚ました。

第1話 伝えられた事実（後書き）

前回の時にはなぜツエルニに行くのかの部分があったため、話を修正するついでに追加してみました。

次回からも前回にはなかった話などを追加していくこともあると思いますが、よろしくお願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2452y/>

天剣授受者レイフォン

2012年1月8日22時32分発行